

点描ぐんま経済

日銀支店長
見聞録

■97■

私は、前橋支店の前に金融研究所にいた。よくある質問が「日銀の外にある組織なのか」と「どんな仕事をしているのか」だ。

金融研究所は、本店に15ある局室研究所の一つ。1982年に日本銀行創立100周年を記念し設立された。経済学などさまざまな分野で学術的な研究をしたり、学会に参加したりする。また、歴史的資料の収集・保存や、展示する貨幣博物館の運営も行っている（東京・日本橋にあり、入場無料で週末も開館！）。

こんなことを書く

群馬の繭

見聞録

と、群馬と縁のない仕事のようだが、実はさにあらず。

私は、29年に始まった昭和恐慌も研究対象

紡がれる蚕糸の歴史

の原材料である繭だ。30年は前年の半値以下。当時日本製で9割を満した米国の生糸需要の減少や、金解禁に向けた円高による生糸価格下落、史上最高の0・02%。ただ、最大の4割を担うのが群馬だ（2020年、農林水産省「蚕糸業をめぐる事情」）。つまり、貴重な現役の養蚕県でも、そうした熱意が綿々と受け継がれているのだ。ろう。

でやぐらのある家を見かけ、感慨ひとしお。養蚕の記憶が、通常の風景の一部として残ることに驚く。

例えば、前橋や富岡にそれぞれ10戸台半ば。県には、養蚕も担当する蚕糸園芸課があり、技術や新規就農を支援している。繭を使う、全国に2社しか残らない器械製糸工場の一つも安中にある。

私は、研究の過程で群馬が養蚕県だったと知

わが国の現在の繭生産は皆減に近く、30年の0・02%。ただ、最大の4割を担うのが群馬だ（2020年、農林水産省「蚕糸業をめぐる事情」）。つまり、貴重な現役の養蚕県でも、そうした熱意が綿々と受け継がれているのだ。ろう。

跡が世界遺産登録されている藤岡の高山社は、国内外で養蚕技術の普及に取り組んだという。蚕糸の歴史

としていた。米国の大恐慌の波及は当然あったが、同時に生じたのが農産物価格の大幅下落だ。それが農家の所得・消費の減少を通じて、どう景気を悪化させたか研究していた。

この時の農家の窮状は「昭和農業恐慌」と呼ばれる。

主要農産物で最も値下がりしたのが、生糸

群馬赴任が決まり、縁を感じたのはいづまでもない。群馬の方々は最も多くの80戸強で、

少しており、20年時点で230戸弱。うち群馬は最大の80戸強で、

皆さま、本年もどうぞよろしくお願ひします。



渡辺真吾（わたなべ・しんご） 1972年生

まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米ミシガン大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、大阪支店営業課長や金融研究所経済ファイナンス研究課長などを経て、2020年9月から現職。